

いないいないばあ

— 令和元年 春号 —

● 発行元 ●

日本赤十字社富山県支部受託
富山県立乳児院
富山市牛島本町2丁目1番38号
電話 076-432-8137
FAX 076-432-8238

5月は「赤十字運動月間」です。

「苦しむ人びとを救い続ける」

困っている人や苦しんでいる人びとを救うために 赤十字の活動やご支援をよろしくお願いします。

富山県立乳児院の養育目標

安全で安心な環境と温かく安定した人間関係の中で
心身ともに健やかに成長できる子どもを育てよう

- 日々の生活の中で「楽しく遊ぶ」「おいしく食べる」
「安心して眠る」が体感できる子ども
- いろいろな経験や人との
ふれあいを通して情緒や社会性が育つ子ども
- 自立心を養える子ども
「自分でできることを増やせる子ども」
「自分がやりたい事を探す子ども」
「人に援助や共感を求めることができる子ども」

新年度にあたり

30年間の「平成」の時代から



5月1日には「令和」に改元されました。元号「令和」の考案者とみられている古志の国文学館(富山市)の館長中西進さんは、特別講演『万葉集とその未来』の中で『令』は「秩序を持った美しさ」、『和』は「単なる平和ではなく、一段上の麗しき平和を重ねていくのが我々の使命」と話されました。改元という機会に、気持ちを新たに志を掲げ、明日に臨むことは清々しいと感じました。

さて、私たちの日々の養育の指標とすべく令和元年の養育目標を掲げました。「どんな養育を目指すのか」「子どもたちには何をしたいか」…考えて、話し合っ、この目標に落ち着きました。これからの一年間、日々子どもたちとの関わりや子どもたちの大切な人々への支援を考えながら、職員相互の連携のもと目標に近づけていきたいと思えます。

ふれあい体験

2歳のお誕生日を迎えたT君とS君は大好きなバスに乗ってふれあい体験に出かけました。バスでは外の風景に興奮気味。最初の目的地の本屋さんではいつも見ているお気に入りの絵本を個人用に購入しました。



みんなの思い出 ひなまつり



例年よりも春の兆しが早く訪れた3月、ひなまつりのお楽しみ会をしました。

子どもたちは練習の成果を十分発揮して「うれしいひなまつり」の歌に合わせて踊った後は、おやつのお餅を頂きました。

遊びのコーナーでは、おひな様製作やボール転がし、マグネット遊び、マジックテープで桃の花を貼る遊びなど、いくつかの違う設定を楽しめるようにしました。

一番人気だったのは、おひな様の衣装をシールで飾るコーナーで、いつの間にかおひな様には賑やかにシールで彩られて嬉しそうでした。



これからの行事

5月
えんぞく
水族館に行きます

7月
たなばた
短冊に
願い事を書きます!

レストランでは大きなお皿のお子様ランチにすぐには食べられず十分眺めてからチキンライス、ハンバーグ、プリンともういらぬと言うまで完食しました。帰路はさっきまで手遊びを繰り返して歌っていたのに気付いたらすっかり爆睡でした。久しぶりにバスに乗って楽しいお出かけを経験できた2人でした。



あたたかいご寄付を、ありがとうございました。

11月

- 柳 祥代さん（東京都）
- 芹田 一信さん（富山県）
- 鹿島 結さん（東京都）
- キーシュン三枝 沙織さん（東京都）
- 秋吉さん（岐阜県）

- 富山県善意銀行さん（富山県）
- 富山国際大学
- 富山県 小林、竹内、内田、室山）さん（富山県）
- 中村さん（富山県）
- 金山 摩耶さん（富山県）
- ホットトットクラブ 京井 克幸さん（富山県）

- 沖田 莉香子さん（東京都）
- 秋葉 沙耶乃さん（京都府）
- 高倉 慶子さん（石川県）
- 飯島 瞳さん（富山県）
- 岡田さん（富山県）
- 坪内 真利江さん（富山県）
- 榎東芝 北陸支社
- 支社長 木山 泰さん（富山県）
- 木谷綜合学園 めくもりの会
- 木谷 泰子さん（富山県）

- 3月
- キーシュン三枝 沙織さん（東京都）
- 匿名さん（富山県）
- 山田 うめ子さん（富山県）
- 新庄幼稚園さん（富山県）
- 追分 克枝さん（富山県）
- 小松原 康史さん（東京都）
- 十二町民生委員児童委員協議会さん
- 十二町赤十字奉仕団さん（富山県）
- 宮田 若奈さん（富山県）
- 株式会社富山技販
- 代表取締役 松井 勝馬さん（富山県）
- 川崎 志桜里さん（富山県）

日本赤十字社

・富山県支部受付



12月 一般財団法人 浅田慈善園さん

1月 ホットトットクラブさん

本間 一正さん



『家庭がはぐくむ笑顔』

里親家庭の子育てについて、里親さんの言葉で記していただきました。



● その20
不妊治療を通して、命の尊さを感じ、この世に生を受けたすべての子どもに幸せになってほしいという気持ちから里親になりました。

里親になるための研修で、親と離れた児童養護施設で暮らす子どもたちの姿を目にしました。富山県では、お盆と年末年始に児童養護施設で暮らす子どもたちと交流するふれあいフオスターという事業を行っています。自分たちに出ることがあればと思い、この事業に参加することにしました。現在、高校生のK君と小学生のA子ちゃんを受け入れしています。期間

中は、常に子どもと話し合いを持ち、子どもがのびのびと自分らしく過ごせるよう心を配っています。

子どもたちには、家の仕事を手伝ってもらったり、私たちの親戚と交流する機会も作っています。子どもたちは家庭での生活経験が少ないためか、戸惑うこともあるようです。具体的に伝えることを大切にしています。

6年前初めてフオスターに参加したときは、年に2回の交流で、子どもたち何をしてあげられるだろうと思っていました。交流を重ねていくうちに、お互い理解しあえるようになり、信頼感が生まれてきました。K君は目標に向かって前向きに頑張る子になり、A子ちゃんは、思いやりのある優しい子になりました。子どもたちの

変化を目にして、親でなくても自分のありのままを受入れてくれる人、帰れる場所が心を安定させ、健やかに育つ力になるのではないかと感じています。私たち子どもたちの成長を見守ることで、たくさんのお話を学ばせてもらっています。

里親になって6年、振り返ってみると、たくさん色で彩られているように思います。子どもたちが私たちの人生にたくさん色を塗り重ねてくれたのだと思います。大変なこともあります。その倍以上の愛情をもらい、喜びを感じます。子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。



～富山県立乳児院“病児保育室『おひさま』だより”～

『元気にな～れ!!』



新緑のまぶしい季節となりました。お休みの日に、遠出をされるご家庭もあるかと思えます。またこの時期、慣れない集団生活で体調を崩されるお子さんが多くなるとも言われています。毎日同じ時間にお布団に入る、同じ時間に起きる等、規則正しい生活リズムを心掛けましょう。

富山県立乳児院病児保育室『おひさま』は体調不良のお子様をお父さんお母さんに代わって、家庭的な雰囲気の中で保育します。